

## 人と動物の共通感染症対策に携わる獣医師を志して

江崎 唯 (東京農工大学農学部獣医学科4年)



私は、高校生の時にBSEや鳥インフルエンザなどの話題が新聞やテレビのニュースを連日賑わしているのを見て、感染症が世間

に与える影響はとても大きいものであると感じた。そこから感染症に興味を持ち、海外から日本への伝

染性疾患の侵入を監視するような検査の仕事をしたと思い、獣医師を志した。獣医師の仕事は多岐にわたっており、大学では様々な分野の講義や実習がある。基礎系の科目から小動物、大動物臨床など幅広く学んでいるが、どの分野も奥が深く、それぞれに興味を湧き獣医学というものは面白いと感じている。そして、それを専門として働けることは素晴らしいことであり、獣医師というものはとてもやりがいのある仕事であると思っている。

一般的に、世間の人々は獣医師というと犬・猫といった小動物の医療を思い浮かべることが多いだろう。そのため、大学で獣医学について勉強していると言うと、「犬とか治すなんてすごいね。」「動物病院を開くの?」などと聞かれる。そのため、将来は小動物の獣医師にはなるつもりはなく、感染症の研究をしたいと説明すると、相手は興味が無くなりそこで会話が終わってしまう。そのたびに、なんとなく気分が落ち込んでしまい、自分の目指しているものは人には必要とされていないのかと悲しくなる。また、私たちは4年生の後期から研究室に配属されており、臨床系の研究室の学生が病院の診療や手術の手伝いをしているのを見ると、臨床系は別世界であると感じたり、なんだか羨ましく思ったりもする。

しかし、動物を飼っていない人でもほとんどの人が獣医師との関わりをもっている。例えば、普段食べている肉類や乳製品は家畜から作られているので、そこでも大動物臨床の獣医師が何らかの形でかかわっており、そして、製品になった後には獣医師が検査をして安全であることを確認してからスーパーなどに出回る。つまり、獣医師がいないと食べることのできないものが私たちの身近には多く、獣医師が担っている仕事が多岐にわたる。獣医師が担っている仕事が多岐にわたる。獣医師は、公

衆衛生の各分野において、人の健康と密接に係わる仕事にも精力を注ぎ、公衆衛生の向上に寄与している。このような分野でも獣医師が活躍しているということをもっと多くの人に知ってもらいたいといつも感じている。

月日が経つのはあっという間で、入学してから4年も経過した。この4年間、様々な授業や実習を受けたが、一番勉強していて楽しいと思える科目はやはり獣医伝染病学であった。少し前に起こったSARSの騒動や今年の4月頃から話題になった新型インフルエンザなどが世の中に与える影響は大きく、私たちの学年は新型インフルエンザで学級閉鎖にもなった。このようなことを目の当たりにして、私は感染症に関わる仕事に携わりたいという気持ちをますます強めた。

動物の感染症は人にうつる可能性があり、産業動物の感染症は農家の人々や私たちの食卓に影響を与える可能性がある。さらに、近年、地球の温暖化現象により昔と環境が変化してきており、今まで発生していなかった地域で新たに病気が発生するかもしれない。また、人が環境に適応して進化してきたように、病原体も現在の状況に合わせてどんどん形を変えて進化してきているはずで、新たに問題となる感染症が発生するかもしれない。おそらく、感染症を地球上から撲滅することは不可能であり、人類はずっと付き合っていかなければならないものだと思う。

現在、獣医伝染病学研究室に所属しており、尊敬できる教官や優秀な先輩方に囲まれ、様々な面で学ぶことが多く、充実した日々を送っている。将来は、国家公務員の獣医職として動物検疫所で働き、外国から日本へ伝染性疾患が入ってこないように監視するだけでなく、輸入される動物や畜産物を介して家畜の伝染性疾患が国内に侵入することを防ぎ、海外に家畜の伝染性疾患を広げることのない動物や畜産物を輸出することによって、日本の畜産の振興・発展に寄与していきたいと考えている。また、輸出入される犬や猫、猿などを介して狂犬病やエボラ出血熱並びにマールブルグ病が伝播しないよう公衆衛生の向上に携わっていきたく思っている。そして、感染症を通じて社会に貢献し、動物や人を救う獣医師になることが私の夢である。

† 連絡責任者 (担当教官) : 白井淳資 (東京農工大学農学部獣医学科獣医伝染病学講座)

〒183-8509 府中市幸町3-5-8 ☎・FAX 042-367-5780 E-mail : jshirai@cc.tuat.ac.jp